

伝統に裏付けられた確かな性能を ランクルの足もとへ落とし込む

16インチから20インチを揃え、名だたるSUVたちにも対応。
もちろんフラッグシップであるランクルのボトムスにもベストマッチ。まさに王者の貫禄が漂う。



●マットブラック

●アッシュドチタン

S1はビジュアルを追い求めるだけでなく機能面でも優れた設計が施されており、ナット周辺のセンターパートはオフロード走行を想起させる力強さとともに、視覚的な美しさも兼ね備えている。このセンターパートはデザイン性に優れているだけでなく、裏面には計算された肉抜き加工が施され、ホイール全体の軽量化を実現している。



WORK

MEISTER S1 1PIECE SUV



●装着カラー: マットブラック(運転席側) ●マッチングサイズ: 16×8.0J インセットF:+0 R:-25/5H-150
●マッチングタイヤ: BFGoodrich Mud-Terrain T/A KM3(265/75R16)

MEISTER S1 1PIECE SUV
¥51,700~¥81,400

5H-150	6H-139.7		
JWL/JWL-T/VIA			
マットブラック			
アッシュドチタン			
16inch	17inch	18inch	20inch
鋳造		アルミニウム	



ランドクルーザー250
●装着カラー: アッシュドチタン(運転席側)
●マッチングサイズ: 18×8.5J インセット52/6H-139.7
●マッチングタイヤ: DUNLOP GRANDTREK AT5(265/60R18)



ランドクルーザー300
●装着カラー: マットブラック(助手席側)
●マッチングサイズ: 20×9.0J インセット40/6H-139.7
●マッチングタイヤ: DUNLOP GRANDTREK AT5(275/55R20)

1 977年の創業以来、ドレリアップ&カスタムカ、ルチャーにおいて数々のトレンドを生み出してきた日本の老舗ホイールメーカー「WORK(ワーク)」。レースシーンで採用されるリアルなコンペティションホイールとしても高く支持されているが、MEISTERもレーシングホイールをモディファイして誕生した経緯を有するブランドだ。そんなMEISTERブランドから新たにラインナップに加わったのが「MEISTER S1 1PIECE SUV」である。

まずそのビジュアルは、MEISTERブランドの王道である5本スポークを基本としつつも、S1至上最大のコンケイブデザインを採用。さらに3ピースモデルから受け継ぐ深リムを再現している。フェイスデザインは同じインチでもインセットによって最大5タイプの違いをフェイスを用意するとともに、リムフランジにはオフロード走行に耐えるリップ構造を採用して、高い剛性を確保しながらMEISTERらしいデザインを表現している。

MEISTER S1 1PIECE SUVは、ただ美しさを追求するだけでなく、機能面でも優れた設計が施されているのだ。

Attached file
QRコードを読み取り
最新情報にアクセス!



マイスターらしく走行性能を高次元へ導く 軽量1ピース・6スポークホイールが誕生

「トレンドは追わない。WORKが、道を創る」という思いから始まったL1 1PIECE SUV。
その獨創性は確実な性能を持つフォルムとなって、今後多くの四駆の足もとを彩ってくれるだろう。



●マットブラック



●アッシュドチタン

力強く直線的な6本のソリッドスポーク構造と深リム、さらに立体感を持たせたリムデザインで構築。このフォルムは高剛性と軽量バランスを両立するために設計と解析を何度も繰り返し、そして強度を保つために必要な骨格を見極めて1グラム単位で無駄を削ぎ落とした理想的な形。



WORK

MEISTER® L1

1PIECE SUV

MEISTER L1 1PIECE SUV
¥63,800

6H-139.7	
JWL/JWL-T/VIA	
マットブラック	
アッシュドチタン	
18inch	
鋳造	アルミニウム



1ピース用コンセプトホイールに端を発し、性能の高さには絶対的な自信を持つ「マイスター」から4WD・SUVに向けた新型ホイールが投入された。その名は「MEISTER L1 1PIECE SUV」。マイスター・エルワンワンピースエスユーブイ」。L1は同ブランドの4WD・SUV専用モデルとしては「S1 1PIECE SUV」に次ぐ2作目で、S1が5本スポークだったのに対し、L1は6本スポークを採用して、往年のコンペティションホイールが持つレーシングスピリットを現代の感性で再構築。L1のLはLiberal（先進）とLiner（直進）の頭文字を取ったもので「決して揺らがない、信頼の証」という思いがネーミングに込められている。

ポイント：深く落ち込むディープセンターコーンからリムへとスポークを延ばし、その先端とディスク外周部との間に段差を設けたこと。6スポークをベイスとしながら、立体的な造形美を演出し、静止時はソリッドな塊感と精悍さが際立ち、走り出すとシャープなラインが鮮烈な残像を描き出す。ダイナミックに表情を変化させるこのソリッドスポークこそが、WORKが叶えたかったデザインとなっている。

Attached file
QRコードを読み取り
最新情報にアクセス!

